

戦争と憲法を考える講演会

私が見たこと聞いたこと

～戦争の被害と加害の実像～

赤い夕陽の旧満州の草原

講演内容要旨（予定）



講師紹介

なかた しげあき
中田 重顕氏

1942年旧満州生まれ。
元公立学校事務職員
文学同人誌「文宴」同人。
著書は、短編小説集「たそがれ、
サムトの妻と」「観音淨土の海」、
エッセイ集「みくまの便り」。
現在世界通信社「教育情報」に
エッセイ「奥熊野に生きた人たち」を連載中。
三重県文学新人賞、鳥羽マリン
文学大賞など。熊野市在住。

・・・・・
〈朗読〉阪本 浩子氏

1942年御浜町生まれ。
元御浜町農協有線放送アナウンサー。
小学校における読み聞かせ運動など。

- ◆明治維新以来、わが国は富国強兵政策を進め、1945年8月まで走り続けた。軍事大国に上り詰めるために、民生や福祉に手が届くことはなかった。奥熊野の庶民たちの過酷な暮らしの聞き書き。
- ◆戦争に突入し、兵は戦死する。軍国の母、妻、遺児が全国に生まれていく。残された女たちの慟哭の聞き書き。
- ◆加害と被害は当然近隣隣国に及んでいく。旧満州（現在の中国東北地方）生まれの講師は、数度にわたり旅をし、戦跡をめぐり、731部隊跡地、満蒙開拓団など加害と被害の歴史を目の当たりにする。実際に目で見、耳で聴いたことを検証する。
- ◆満州防衛の責務を負う「無敵」関東軍は、ソ連が満州に侵攻してきたとき、国境の開拓団の人々をなぜ守らなかったか。あの広大な北満州の荒野を軍に見放された女性・子ども・年寄りたちはどう避難したか。世界の歴史に例のない悲劇が……。

——講師自身が実際に見聞きしたことのみ、映像と朗読で検証します。

2018

12/9
(日)

1:00開場 / 1:30開演
新宮市福祉センター

※どなたもお気軽にお越し下さい。有志の方のカンパは大歓迎です。

主催 **くまの平和ネットワーク**

（代表 二河通夫／問）TEL0735-21-1674 植村）

入場
無料



紀南9条の会／しんぐう9条の会／紀宝9条の会／宝来9条の会／年金者組合新東支部9条の会／新日本婦人の会東牟婁支部／ほんぐう9条くらぶ／御浜9条の会／なちかつ・たいじ9条の会／くしもと9条の会／古座川9条の会（順不同）——以上「憲法9条を守りたい」と活動している熊野から串本までの地域11団体の共同企画です。